

地震火山観測研究センター一年報 : 2007 年度版

<https://doi.org/10.15017/16959>

出版情報 : 九州大学大学院理学研究院附属地震火山観測研究センター一年報. 2007, 2009-01. 九州大学大学院理学研究院 附属地震火山観測研究センター
バージョン :
権利関係 :

SEVO NEWS

2007年4月1日

- センターの平成19年度の新メンバーに、長井大輔が研究機関研究員、田原道崇が学術研究員として採用されました。
- センター技術員の内田和也が、技術専門職員に昇任しました。

2007年4月24-27日

- 長崎大学水産学部の長崎丸(842 総トン)を使用し、鹿児島県甑島西方海域に14台(うち九州大学12台)の海底地震計を設置しました。これは、長崎大学、東北大学、東京大学、鹿児島大学との共同研究であり、設置航海には九大から植平、雑賀、内田、中元(B4)が参加しました。

2007年5月7日

- カメルーン出身の Ngando Akoumou Manga さんが、JICA 火山学研修の個別研究生として、センターに配属されました。

[研修期間：2007年5月7日から9月上旬]

2007年5月7-10日

- 海底地震計による2007年能登半島沖地震の余震観測(植平)

2007年5月10日

- 「第5回火山都市国際会議島原大会 平成19年度第1回実行委員会」島原(清水、松島、長井)

2007年5月17日

- 稲生山(普賢岳東麓)の調査登山(松島、長井、平尾、ガンド)

2007年5月28日

- 東北大学名誉教授の浜口博之先生によるセミナー「ニイラゴゴ火山の溶岩湖活動と噴火」が、センター新館において開催されました。

2007年5月31日

- 平成新山への調査登山を行いました。センターの職員・学生および防災・報道関係者などが参加しました。

2007年6月7日

- 「島原市防災会議」が島原市杉谷公民館で開催され、清水が最近の雲仙岳の状況について報告しました。

2007年6月7-10日

- 別府地域でやや大きめの群発地震が発生しました。当センターでは京都大学地球熱学研究施設と共同で別府市亀川地区に臨時テレメータ地震観測点を設置しました。また、京大・唐木山観測点に衛星テレメータを設置してデータ配信するとともに、オフラインの地震観測点を1地点(内籠のちに鉄輪に移動)を設置しました。また、別府地区の地殻変動を調べるために6地点の臨時GPS観測点を設置しました。(松本、松島、雑賀、リツキタ、清水、河野、平尾)

2007年7月9-13日

- 2007年4月に鹿児島県甑島西方海域に設置した海底地震計を長崎大学水産学部の長崎丸を使用して回収しました。(清水、内田、雑賀、中元(B4))

2007年7月16-20日

- 7月16日に発生した新潟県中越沖地震の調査のために、松島、松本、平尾、中元(B4)が新潟県柏崎市および上越市の2地点に地震計を、4地点にGPS測定装置を設置しました。

2007年7月19-27日

- 東京大学地震研究所・受託研究(RR2002:東南海・南海地震に関する調査研究-予測精度向上のための調査研究-)設置回収航海(植平、田原)
[回収航海:11月27日-12月5日]

2007年7月24日

- 海底地震計による2007新潟県中越沖地震の海域での余震観測(東京大学、東北大学、北海道大学、JAMSTECとの共同研究)(植平)
[回収航海:9月21日-9月23日]

2007年7月26日

- 阿蘇中岳で行われた湯溜まり採水調査に河野・松島が参加しました。

2007年8月20-26日

- 11月開催の第5回火山都市国際会議島原大会に向けての各種打合せやリハーサルが行われ、報道陣にも公開されました。24日には巡検打合せもかねて平成新山調査登山が実施されました。(清水・松島・長井)

2007年9月24-25日

- 西南日本横断地殻変動プロファイリング研究(代表者:田部井隆雄・高知大助教授)の一環として、松島・中元が九大担当の広島県呉市周辺に3カ所のGPS観測点を設置しました(2007年10月11日まで観測)。

2007年9月28日-10月5日

- 全国の大学と共同で石川県～長野県に渡る地域において人工震源を用いた構造探査「跡津川構造探査2007」が実施されました。九州大学は富山県高岡市周辺に30ヶ所の地震計を設置して、7発の人工地震を観測しました。(松本, 松島, リツキタ, 中元, 澤井(B3))

2007年10月4日-11月21日

- 三陸沖合での制御震源を用いた海底地震構造探査(東北大学、東京大学、北海道大学との共同研究)

2007年11月19-23日

- 「第5回火山都市国際会議島原大会」開催
当センターは、上記大会を共催し、清水が実行委員会副委員長、松島が事務局次長を務め大会の指揮を執り、センターの職員や学生も大会の運営に携わりました。

2007年11月24-26日

- 第5回火山都市国際会議島原大会の一環として、雲仙火山巡検[C1:雲仙火山と平成新山登山]が行われ、清水・松島・長井が案内役を務めました。

2007年12月3-7日

- 第10回桜島火山集中総合観測の一環として、桜島周辺で水準測量を実施しました。(松島, 内田, 中元)

2008年1月17日

- プロジェクト名「高速広域レイヤー2網によるリアルタイム地震観測波形データ交換システムの構築」(九州大学・研究代表者:植平賢司)で、JGN2アワード「アプリケーション賞」を受賞しました。
- 「九州大学理学部地球惑星科学科専攻・特別研究発表会」が行われ、中元真美が以下の発表を行いました。
中元真美:2005年福岡県西方沖地震の本震直後の余震について

2008年1月22-23日

- 「九州大学大学院理学府地球惑星科専攻・修士課程論文発表会」が行われ、平尾暁彦が以下の発表を行いました。
平尾暁彦:福岡県西方沖地震に伴う余効すべりの断層モデル推定について

2008年2月4日

- 「第5回火山都市国際会議島原大会実行委員会」島原(清水, 松島, 長井)

2008年2月14日

- 「島原半島ジオパーク推進連絡協議会設立総会」島原(清水, 松島)

2008年2月20日

- 福岡西公園地震観測点に新たに深さ15mのボーリング孔を掘削し、内部に地震計を設置しました。地表の人工振動が抑制され、より微小な地震も検知できるようになりました。

2008年3月12-15日

- 特定火山総合集中観測「阿蘇火山の深部構造の研究」の一環として、衛星通信テレメータ観測点の設置作業を行いました。(雑賀, 内田)

2008年3月14日

- 長崎県および3市と防災関係者代表からなる「雲仙岳警戒区域設定等の調整会議」が島原市杉谷公民館で開催され、松島が最近の雲仙岳の状況について報告しました。

2008年3月26日

- 「第5回火山都市国際会議島原大会タイムカプセル封入式」が島原市で開催され、センターの職員や学生も出席し、大会の関連資料をタイムカプセルに収めました。これは、噴火の教訓や会議の経験・成果を後世に伝えることが目的で、25年後の2033年に開封予定です。